

クリニックレター 2016.8月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

5月に、神戸大学医学部の6年生を対象に、「東洋医学概論」の講義をしたのですが、学生さんに「聞きたいこと」を自由に書いてもらいました。

今回はその質問と私の答えの一部を載せてみました。

Q:西洋医学を併用する際に注意すべき副作用について教えてください

A:例えば、β刺激薬やテオフィリン製剤を使っている気管支喘息の患者さんに、心刺激作用のある「麻黄」を含んだ漢方薬（麻黄湯や葛根湯、神秘湯など）を使うと、動悸・発汗・頻脈などの副作用が起こりやすくなります。このように、漢方薬の薬理作用をきちんと理解して、他の治療法との相互作用を把握することが必要です。

Q:漢方薬の薬理学的機序はどのくらい解明されていますか？

A:近年、五苓散の利尿作用がアクアポリンを介したものであるという研究や、六君子湯の消化器系ホルモンに対する作用など、いくつかの方剤について研究が進んでいますが、まだまだ、すべての漢方薬の薬理作用が解明されるまでには時間がかかると思います。興味のある方は、日本東洋医学会や和漢医薬学会、生薬学会などのサイトを通じて調べてみてはどうでしょうか？

Q:漢方の添付文書を見ると、「体力のある人に」とか、「気力弱めの人に」みたいな記述が数多く見られるのですが、どのように決められているのでしょうか？

A:患者さんを見て、この人は体力があるのかないのか、気力が強いのか弱いのか、など、すぐにはわかりませんよね。もっと言えば、「体力」っていったい何をさしているのか？も曖昧です。

漢方的には「胃気」とか「生氣」というものが強い人と弱い人では治療法が異なってきます、この場合の「胃気」「生氣」は主に、脈やお腹の診察で判断するもので、人の外観（骨格や皮膚の色など）では判断できないことがおおいです。現在の日本漢方の添付文書にある「体力のある人」というような表現は、昭和中期、主に薬局で漢方を販売していた薬剤師さん向けに、脈をみたりお腹をさわったりしなくてもある程度「証」の判断ができるようにと創られた造語であり、現代医療においては、適当な表現ではない、というのが私の意見です。

Q:今、一番漢方が使われているのは、どんな疾患に対してですか？

A:コマーシャルベースでポピュラーなもの、ということであれば、腹部手術後に使われる大建中湯、認知症周辺症状に使われる抑肝散、機能性胃腸症を中心とした消化器症状に使われる六君子湯、こむら返りに使われる芍薬甘草湯などです。

A:なぜ、明治以降、ごく最近まで、日本の医学教育のなかで漢方が否定されてきたのでしょうか？

A:難しい問題ですが、江戸末期には、内科的治療は漢方、外科的治療は西洋医学という流れが出来ていたようです。西洋医学が明治以降、国の定める「正式な医学」となったのは、富国強兵策、つまり、戦場で傷ついた兵士を早く治療して前線に戻すことの必要性、それと、感染症予防・衛生思想などと関連しているのではないかと考えます。

Q:先生にとって、「漢方」とは何ですか？

A:私が医師として仕事をする際の原動エネルギーですね。

Q) 先生が漢方に魅せられた最大のポイントは何ですか？

A:「人を診ることができる」ということです。

より詳しい内容は当院ホームページに記載する予定です。

AMARILE PHILHARMONIC ORCHESTRA

Program

- ◆ヴァクトル・エヴァルド
金管五重奏曲 第2番 作品6
- ◆アントニン・ドヴォルザーク
ピアノ五重奏曲 第2番
イ長調 作品81 B. 155
- ◆ポール・ランスキー
ポップ(マリンバ+ヴァイオリン)
- ◆フランシス・ブーランク
管楽器とピアノのための六重奏曲

【出演者】
Vn:富家聖香 三谷りょう Vn:特谷崇 Vc:山岸亜実美
Fl:藤田香織 Cl:山本聡美 Ob:福盛貴基 Fg:下村かず実
Hr:持永芳祐 Tr:森美鈴 山崎浩司 Tb:和田康幸
Tub:北藤悠子 Tpt:Mar:榎井美咲 PR:山口日向子※
(※印 賛助出演)

【チケット】
一般 3,000円
割引対象会員 2,500円
学生 2,000円
☆団体割引(10人以上のお申込みで、お一人様各チケット料から500円引き)

※全席自由・税込み
※未成年者のご入場は、ご遠慮ください。

西本院長の姪御さんです。
8月31日
西宮芸術文化センター小ホール
当院でチケットのご用意がございます

ピアノ 山口日向子 1986年生まれ
東京芸術大学音楽学部器楽科を経て、同大学大学院音楽研究科修士課程器楽専攻修了。大学院在学中に渡独し、マンハイム音楽大学大学院を満点の成績で修了。第51回全日本学生音楽コンクール小学校の部全国1位第15回ロケッタ市国際音楽コンクール(イタリア)第1位、ロータリークラブ賞受賞。第23回イブラ国際音楽コンクール(イタリア)優秀賞、リスト特別賞受賞。

吹田市民劇場「セタコンサート」にて関西フィルと協演。ドイツ・イタリアにてソロリサイタルを開催。現在、名古屋、関西を中心にソロ、室内楽、伴奏等、幅広く演奏活動を行っている。



2016.8.31(水)兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

19:00開演/18:30開場

【主催】(一社)アマレフィルハーモニー管弦楽団

【後援】阿美レ楽団

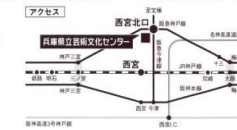
【お問い合わせ・チケット申し込み】

アマレフィルハーモニー管弦楽団 事務局

大阪府茨木市総持寺台1-14-1

TEL:072-628-7306(月火木金11:00~17:00)

※contact@amarile-philharmonic.com



お車で来院される患者様へ
歩行者や近隣の方の迷惑になりますので、駐車場の指定されたスペース以外、及び、クリニック周辺の道路には、絶対に車を駐車されないようお願いいたします。駐車場での長時間のアイドリングもお控えください。

休診のお知らせ
8月12日(金)13日(土)15日(月)は夏季休診とさせていただきます。
また、9月20日(火)9月23日(金)の院長外来は休診です。

クリニックレターのバックナンバーをお読みにになりたい方は、クリニックのホームページをご覧ください。